

## 令和7年度 小学校視聴覚教育部会 研究報告

(1) 郡市名 東近江市

(2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

### (3) 研究組織

支部長	五個荘小学校	校長	安江 利光
運営委員	八日市南小学校	教諭	寺村 尚子
研究推進委員	五個荘小学校	教諭	野村 真悟

### (4) 年間の研究(事業)報告

6月10日 県視聴覚部会 支部長会(事務局会議)  
7月22日 県小中教育研究会視聴覚部会 小中運営委員・研究推進委員合同研修会  
11月12日 第74回近畿放送教育研究会  
第75回近畿学校視聴覚教育研究大会 ～奈良大会～  
2月17日 小中支部長・運営委員・研究推進委員合同研修会  
通年 各校でのICTを使った授業の実践

### (5) 取り組み(実践事例)

今年度、第75回近畿学校視聴覚教育研究大会が奈良県で行われた。そこで、五個荘小学校の森本愛理教諭が第4分科会(道徳・心の教育・情報モラル)で発表をしてくださった。以下はその大会で発表された内容である。

#### 小学校部会①

研究主題(どの児童も自分事として捉え、主体的に学び合い、生きる力を育む)

～ICTの効果的な活用を通して、考え、議論し、振り返る、特別の教科 道徳の授業づくり～

提案者 森本 愛理 (東近江市立五個荘学校)

#### 1. はじめに

近年、デジタル化を含む社会の変化が加速している。急速に変化する社会状況の中で、子どもたちは、自ら課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、解決につなげていく力が重要となってくる。そこで、誰一人取り残すことなく、すべての子どもの可能性を引き出すために、道徳科で自己や学びにつながるICTの活用の在り方について研究した。

道徳科では、「よりよく生きるための基礎となる道徳を養う」ことが目標とされている。ICT による思考の可視化で、児童・生徒の「自分の考えを共有」したり、「多様な考えに触れ」たり、「振り返りを深め」たりなどの作用により、「自己関与」と「他者理解」が深まると考えた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる。

「ICT を活用して道徳のねらいを深める」、「ICT 活用を通じて道徳的態度・判断を育む」を目指して、小学校2年生を対象に道徳科で、「ICT の効果的な活用を通して、あたたかい心、親切な心について考えよう」の授業を実践した。

## 2. 実践研究の内容

特別の教科 道徳 「くりのみ」

(「小学校道徳 生きる力2」日本文教出版)

主題名 「あたたかい心」【B(6)親切、思いやり】

- (1) 導入 北風の音 (ICT) を流して、物語の世界に入れるようにする。
- (2) 展開 『どんぐりを隠したきつねの気持ち』を考える。
- (3) 展開 『うさぎに尋ねられてきつねが困った顔をする場面で、きつねがどんなことを考えていたのか』を考える。そこから、くりのみを見つけたことを言うか、隠したままにしておくかの葛藤を 心情メーター (ICT) で表す。心情メーターは、Padlet (ICT) で共有する。
- (4) 展開 『涙を流すきつねはどんなことを考えていたか』を考え、涙カードに記入し、Padlet (ICT) で共有する。
- (5) 終末 『親切にして、よかったこと』を共有し、教師の説話を聞く。

## 3. 結果と考察

導入で ICT を活用し、北風の音を流すことで、物語の世界に入りやすく、情景を想像して道徳のねらいを深めることができた。また、季節に気づいたり、想像することが苦手な児童の支援になったりもした。

展開では、デジタル教科書の心情メーターを活用し、葛藤の場面で活用した。葛藤場面で活用することにより、深く考えることができた。また、心情メーターは、Padlet (ICT) で共有した。Padlet (ICT) で共有することで、自分のタイミングでたくさんの意見を見ることができたり、多様な考え方に触れることができたりした。早く考えられた児童も、他の児童の意見に触れ、道徳的価値をより深められることにつながったと考えられる。

涙カードを用いて、Padlet (ICT) で共有することも行なった。様々な意見から、自分の経験や今までの考えを立ち返ることができた。

ICT 活用の経験が少なかったため、活用には戸惑うことがあったが、即時に友達の考えを見ることができたり、振り返りを残しておくことができたりして、効果的だった。ICT を効果的に活用することで、協働的に学び合い、深い学びにつながり、生きる力の育成につながったと考える。

#### 4. おわりに

本授業を通して、ICTの効果的な活用が、自己や他者を見つめる機会になることが分かった。また、協働的な学びになり、深い学びになると気づいた。児童自身も、多様な意見に触れ、学びを実感できていた。

今後の教育現場において、児童が適切に活用し、将来正しく、効果的に活用できるように、色々な場面で活用していくことが大切である。今回の授業実践をうまく活用し、児童の情報活用能力を高めていきたい。



電子黒板で「心情メーター」を使いながら、自分の考えを発表している様子



タブレットで「心情メーター」を使いながら、自分の考えを表現している様子



児童一人ひとりが考えた「心情メーター」を Padlet に共有し、集まった意見を電子黒板に写してみんなで確認している様子



児童一人ひとりが考えた「心情メーター」を Padlet に共有し、友だちの意見を自分のタブレットで確認している様子